

風土記の丘の花だより¹⁴⁶

今、そしてこれから見られる植物(2022年8月6日)

毎年おなじようなことを言っているように思いますが「今年の夏は今までで一番暑い」ような気がします。コロナに加えて熱中症にも十分気を付けながら、風土記の丘を歩いてください。



谷山家の庭でやっとカノコユリが咲きました。カノコは「鹿の子」、シカの子どものことです。子鹿には体に白い斑点があります。この花の花びらにも斑点があるので、カノコと名付けられました。つぼみもたくさん付いているので、しばらくは楽しめそうです。谷山家の庭ではキキョウランも咲いています。もう実も出来ています。石灯籠の下を探してみてください。



柳川家の南の山裾でミョウガの花が見られます。でもこのごろ何者かが荒らしに来て困っています。ミョウガのつぼみはそうめんなどの薬味として重宝されます。人なら、もっとマナーや節度を守って採ると思います。イノシシもそうめんを食べるのでしょうか？あの採り方はきっと、けものか何かでしょう。きれいな花も踏みつけられて痛々しいです。



前山A17号墳の近くのタラノキの花がいま満開です。こう暑いとそこまで上るのも大変かも知れませんが、何もわざわざそこまで行かなくても、大きなタラノキなら、どこでも花が見られます。タラノキはトゲトゲのタラノキと刺の少ないメダラに分けられますが、ハッキリ区別する人と、同じ種類だとする人がいます。(ちなみに私はどっちも一緒と思っています。タカサゴユリの白い花がいきなり咲き始めました。背が高く、大きなものでは2メートルを超えます。普通ユリを栽培するときは、種子ではなく球根を植えます。もし種子から植えると開花まで数年かかるそうですが、このユリは種子をまいてからなんと8ヶ月ほどで開花するそうです。それで全国に急速に増え広がったのです。台湾原産の外来植物です。 松下

